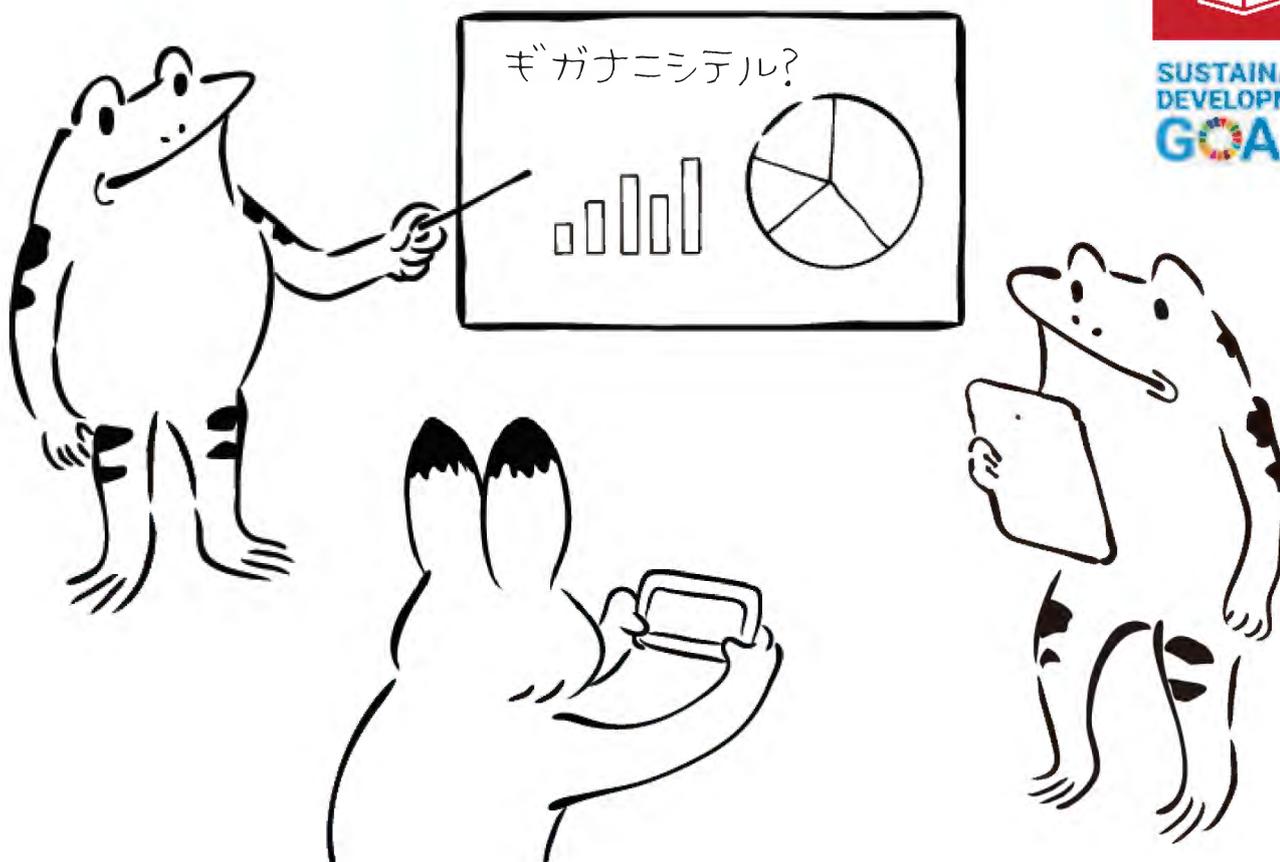


おokayamaICT活用 実践事例集



Web版

～ 主体的な学びを充実させるICT活用 ～



美作市立美作北小学校／県立津山中学校／井原市立芳井中学校
／県立岡山朝日高等学校／県立津山高等学校

vol. 1
2021.8

岡山県総合教育センター



美作市立美作北小学校で6年生理科の公開授業を取材させていただきました

【概要】

授業は6年生理科、単元「ものが燃えるしくみ」の第6・7時「ものが燃えるときの空気の変化」です。気体検知管を使い、ものが燃える前と後の空気の変化（酸素の割合が減り、二酸化炭素の割合が増える）を測定する、グループ活動での実験を中心とした授業であった。

授業者は、理科専科で、校内の情報教育も担当し、教育の情報化を中心となって進めている。

活用していたICT環境は、①1人1台端末（Chromebook）、②教師用パソコン、③大型提示装置（液晶モニター）、④Google Workspace for Education Fundamentals（Classroom、Spreadsheet、Forms）。

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 教科指導における活用

1 実験のワークシート等、授業で活用するファイルはすべて、Classroomで共有していた。

・継続して使っているため、児童は教師の簡単な説明ですぐにファイルを開くことができていた。



2 前時を振り返り、児童が予想した本時の実験の結果を、Spreadsheetに入力しクラス内で共有していた。

・短時間に効率的に児童の意見を共有できていた。
・発表者の意見を聞きながら視覚的にも確認できていた。
・共有した予想をもとに本時の学習課題を引き出していた。



3 1人1台端末（Chromebook）を使わないときは、端末を閉じていた。

・活動にメリハリをつけ、児童に今すべきことを示すことにつながる。



4 端末を使って入力したりクラス内で共有したりするデジタルの活動と、板書やノート指導などアナログの活動が意図を持って区別されていた。

・板書とノートの活用は今まで通り指導し、めあてなどをノートを書く時間も十分確保されていた。



5 気体検知管の使い方を教師用端末から大型提示装置に映して、動画を使って説明していた。

・同じ動画を、1度目は教師が説明しながら、2度目は児童が各自で確認をしながら、見る事ができていた。



6 実験で得られたデータを、Spreadsheetを使ってリアルタイムに共有していた。

・他のグループの実験結果をすぐに見ることができ、個別の数字に流されることなく、広い視点で実験結果を考察することにつながった。



7 Formsを使って振り返りを行っていた。

・個の活動を意識させ、Formsを使って考えをまとめさせていた。
・Formsに入力した振り返りをSpreadsheetに残すことにより、学びの成果を一覧にして見ることができ、教師の評価に活かすこともできる。



B 学習環境・校務の情報化

8 授業の前にWiFi環境を確認する。

・理科室にはWiFi環境が未整備だが、近隣教室からの電波と、モバイルルーターを組み合わせ、教室内の端末がストレスなく、ネットワークにつながっていた。事前の準備でWiFi環境の確認を行っていた。



9 児童の出欠や健康観察の状況をSpreadsheetで共有している。

・各教室で入力された情報を職員室や校長室でリアルタイムに共有でき、管理職や養護教諭が必要な対応を迅速に行うことができていた。



10 充電ボックスによる端末管理が行われている。

・校内での活用を考慮した端末の管理と充電が行われており、教師の負担軽減と日常的な活用につながっている。
・夜間にタイマーで自動的に順番に充電されるしくみになっている。
・5台単位でかごに入っており、かごでの移動も可能で、1人1台やグループ1台の活用に柔軟に対応できる。



【まとめ】

美作北小学校では、昨年度の3学期より理科をはじめとして各教科で積極的なICT活用を進めている。授業内で、1人1台端末を使い、Googleの各アプリの共有機能を効果的に活用し、1人1台端末の活用が「主体的な学び」や「対話的な学び」につながるよう意識した授業を行っている。

活動内容によっては1人1台端末の活用だけでなく、教師が大きく映して説明する従来のICT活用も組み合わせていた。

キーボード入力が課題となっている児童もおり、今後系統的な指導の必要性を感じているとのことだった。

公開授業は校内や市内の教員が多く参加していた。今回の授業が好事例として広く次の実践につながっていくものと思われる。



岡山県立津山中学校の1人1台端末の活用状況を取材しました

【概要】

各教科の授業のどこで1人1台端末を活用できるのか、教科担当が工夫を凝らして実践した様子をお聞きしました。英語や数学、理科など、授業での活用実践を中心に紹介します。

活用しているICT環境は、①1人1台端末（Chromebook）、②Google Workspace for Education Fundamentals（Classroom、Spreadsheet、Forms、Slides）、③録音ソフトウェア、④デジタル教科書。

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 教科指導における活用

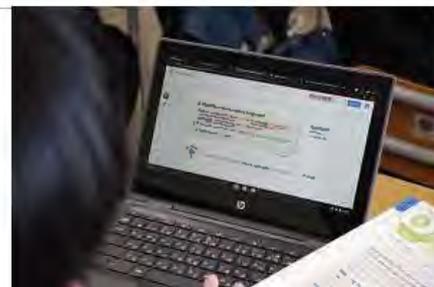
1 【英語】 Spreadsheetで英単語の習得から単語テストまで行い、採点も自動で完了できる。

・従来、単語帳を使っていた英単語の習得をSpreadsheetを活用して学習している。練習用のSpreadsheetにタイピングで練習し、リンクから音声を聞くこともできる。単語テストでは練習と同様の形で行うことでスムーズに解答でき、数式により自動で採点される。従前のように紙に書いて単語を覚えることにとらわれない発想で、採点作業もなく、作業の効率化が図られている。



2 【英語】 Spreadsheetで英作文を行うことでリアルタイムで添削やアドバイスが行え、その場でフィードバックできる。

・Spreadsheet上に英作文を行う「授業シェアノート」を作り、クラス全員がそれぞれ入力する。リアルタイムで生徒の英作文を添削し、アドバイスを行うことができる。その場でフィードバックすることで、間違っただまにならず、他の生徒の書き込みも見ながら自分の英作文の力を向上させることができる。



3 【英語】 動画でリスニングの練習をしている。

・YouTubeなどの英語の動画を個別の端末で聞くことで、リスニングの力を育てることができる。必要に応じて繰り返し聞き直すことができるので、習熟度に合った学習ができる。



4 【英語】 スピーキングテストを録音して提出している。

・スピーキングテストを端末に録音し、Classroomから提出することで、従来1時間かけて行っていた作業を5分で行えるようになった。採点についても空いた時間を有効に活用し、短時間でできている。

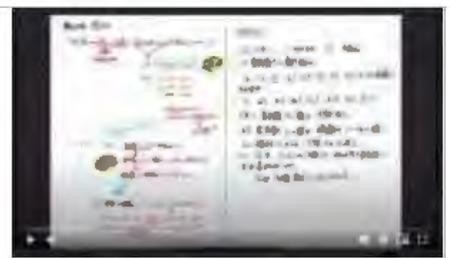
5 【数学】 小テストは紙とFormsのハイブリッドで行い、Spreadsheetで振り返りをみんなで共有している。

・数学では数式を端末に入力するのは難しいため、小テストの実施は従来通り紙を配付して行い、解答をFormsに入力する。Formsの分析機能を活用することで、採点と同時にどのような誤答があるか自動で表示され、小テスト後に即座に間違いやすいポイントを共有することができる。



6 【数学】要望に応じて解説動画を作成して、いつでも何度でも説明を聞くことができる環境を整えている。

・質問に対し、個別に解説していた内容を、少し丁寧な解説動画にしてドライブにアップしておくという取組である。「質問form」から質問したい問題をリクエストすることができ、他の生徒が質問した問題の解説も見ることができる。また、授業のない日でも解説動画を見て学習することができる。教師は複数の生徒に何度も同じ説明を繰り返す必要がない。



7 【理科】実験結果や考察結果を共有したり、デジタル教科書を活用して、より細かな観察を行っている。

・実験結果や考察をSpreadsheetに入力し、全員で共有しながら1人1人が自分の考えを深めたり、全体でディスカッションしたりできる。
・デジタル教科書でサバの3D骨格標本を開き、生徒自身の手で動かすなど、より細かな観察が行えている。
・授業で使用したスライドをClassroomにアップして、家庭学習で活用できるようにしている。
・Classroom上にあるFormsで授業の振り返りをしている。



8 【課題研究（3年生）】Slidesを使ってプレゼンを作成し、Classroomに提出している。

・従来、情報教室に移動して作成し、USBメモリに保存していた課題研究のプレゼン資料を各自の端末からSlidesを使って作成し、Classroomに提出することが可能になった。
・発表スライドを個別の画面で開くことができるので、小さな発表会を気軽に開くことも可能である。



B 生徒会活動・部活動の情報化

9 【生徒会活動など】ネットワークを活用してオンラインでの生徒総会や、端末を活用したアンケート回収を行っている。

・各クラスごとにオンラインでつなぎ、生徒総会を開催。スマホサミットに向けた生徒のアンケートもFormsを活用して簡単に回収することができる。



10 【部活動】野球部と陸上部ではClassroomを活用して、顧問からの連絡や仲間づくりも行っている。

・部活動の予定表などの連絡をClassroomで行うことで、各部員が各自で確認しやすくしている。
・コロナで部活動が停止しても、自主トレーニングのメニューを共有し、モチベーションの維持や仲間づくりにも生かすことができている。

【まとめ】

津山中学校では、様々な場面で1人1台端末の活用に挑戦し、Googleの各アプリの共有機能を効果的に活用されてきました。数学の数式の入力や、Chromebookからの印刷などの課題もありますが、先生方の姿勢が前向きで、チャレンジ精神がうかがえました。端末を使うことで従来の紙で学習することの良さも再認識していることで、紙と端末の長所を上手に組み合わせながら更なる活用を模索しているそうです。紙面に取り上げたもの以外では学校評価アンケートなどにも活用されています。その他の校務でも積極的な活用を考えているそうですが、規模の小さい学校なので、端末活用で生まれるのはメリットばかりではないそうで、意見を出し合い、試行錯誤しながら活用方法を模索しているそうです。

津山中学校のWebページには、Chromebookを使用した授業実践が掲載されています。ぜひご覧ください。



井原市立芳井中学校での取組を取材しました

【概要】

井原市立芳井中学校では、4月から生徒一人に一台の端末が配付され、ほぼ毎日、授業等で活用されています。「Chromebookは学びと子どもをつなぐもの」をキーワードとして進めている取組を伺いました。

活用していたICTは、①1人1台端末（Chromebook）、②教師用パソコン、③大型提示装置（電子黒板機能付き液晶モニター）、④Google Workspace for Education Fundamentals（Classroom、Jamboard、Spreadsheet、Forms）、⑤Chrome cast、⑥テキストマイニング。

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 教科指導における活用

1 Jamboardで、思考を整理したり、考えを共有したりしている。

・各教科で資料を提示するなど、授業での活用が進んでいる。特にグループ学習で、Jamboardを使って思考を整理したり、考えを共有したりしている。

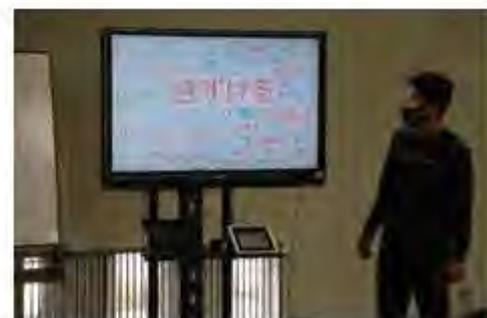
【保健体育】「マット運動」の学習では、各グループ内で一人一人の演技を動画撮影し、それを再生しながら互いの演技を確認させ、「良かった点」「課題・アドバイス」を個別のJamboardへ書き込ませる。生徒はグループのメンバーから書き込まれた内容を見返すことで他者からの評価を取り入れながら自己の課題を設定し、次時への取組の意欲を高めることができている。

【理科】グループごとに実験結果をJamboardにまとめ、それらを学級全体で共有している。このことにより、活発な意見交流が生まれ、新たな気づきを得たり、理解を深めたりすることに役立っている。



2 テキストマイニングで、振り返りと次時の導入とのつながりをもたせる。

【保健体育】Formsを使用して授業の振り返りを行わせ、集計した生徒の記述をもとにテキストマイニングを行っている。出現頻度の高い言葉や特徴的な言葉を次時の授業の導入で紹介し、そこから見えてきた課題や新たな学びへのヒントを全体共有することで、前時とのつながりを持って授業に臨むことができるようにしている。



3 Jamboardで説明資料を作成。発表はcastで投影して行っている。

【総合的な学習の時間】新入生が見通しをもって1年間の学習を進めることができるよう、3年生が自らの1年次の取組をJamboardにまとめ、1年生に対してプレゼンテーションを行った。発表の際には、Chrome castでタブレットの画面を大型提示装置に投影することで、スムーズな発表が可能となっている。



4 ソフトを使ってタイピングの向上。

・キーボードを使用して文章等を打つことが多いが、「タイピング」の技能に個人差があることが分かったため、本校独自の補充学習時間（「ななのちから」）を活用し、全学年、週2回タイピング練習を行っている。6月には、「芳井中学校 タイピング技能検定」を実施し、ドキュメントを使用し、3分間で何文字打てるかということにチャレンジさせた。これまでの積み重ねの成果が現れ、速い生徒は、200～250文字打つことができるようになっている。



B 学習環境・校務の情報化

5 生徒は健康観察をFormsに入力している。

・朝、登校したら、保管庫へ端末を取りに行く。その後、各自Formsを使って健康観察を行う。入力されたデータはSpreadsheetで集計され、担任や学年団等が生徒の健康状態を素早く把握することができる。



6 授業終了時まで各自で管理するルールがある。

・端末は各自で管理し、授業で活用する。また、授業中も端末を「使用する」「発表する」「話を聞く」とメリハリを付け、使わないときは、机の中もしくは持ち運び用手提げ袋の中にしまい、帰る前に保管庫へ戻し充電するという流れやルールが生徒に定着している。



7 職員朝礼も時間短縮。連絡事項をドキュメントで共有し、いつでも見える、書き込める。

・職員全員がアクセスできる共有ドライブを作成し、ドキュメントを使用して職員朝礼を行っている。ドキュメントには、連絡事項等を打ち込むことだけでなく、共有したり、資料のリンクを貼り付けたりするなどしておき、効率のよい仕組みを整えている。



【まとめ】

芳井中学校では、一人に一台の端末が配付され、生徒も教師も「ともに学んでいく」という姿勢で取り組まれていることを伺いました。先生方が抵抗感なく使用できていることの要因として、先生方の普段の何気ない会話の中で端末の使用について気軽に話をしたり、有効だった使い方をお互いに紹介したりしていることが考えられます。

情報担当者の「日々の授業が研修」という言葉の通り、得た情報を自分の授業で活用してみようとチャレンジする中に新たな学びがあることや、「端末を使うことが目的になってはいけない。あくまで端末はツールであり、文房具になるようこれから授業の中に組み入れていくことが課題です。」との言葉が印象的でした。



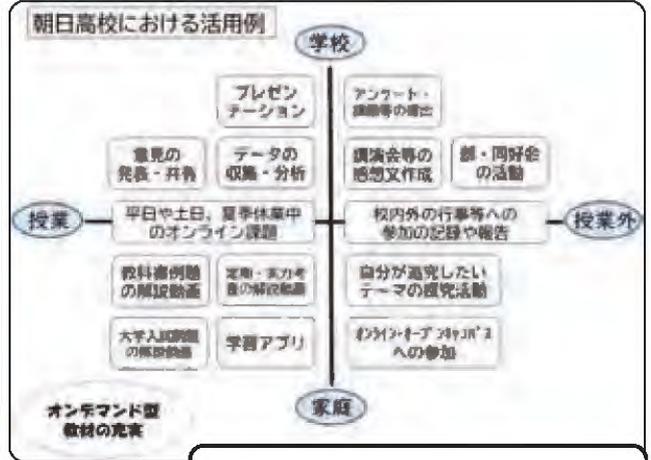
岡山県立岡山朝日高等学校でのGIGAスクール構想推進の取組を取材しました

【概要】

岡山朝日高等学校では、「本質的な学力を獲得するとともに自己表現するための道具として校内外で活用」という方針を掲げている。

Chromebookの校内外での活用例をマトリックス図(右図参照)に落とし込み、全体の見取り図を作成して、生徒、保護者、教職員の間で共有している。

以下は、その活用の一例を紹介する。



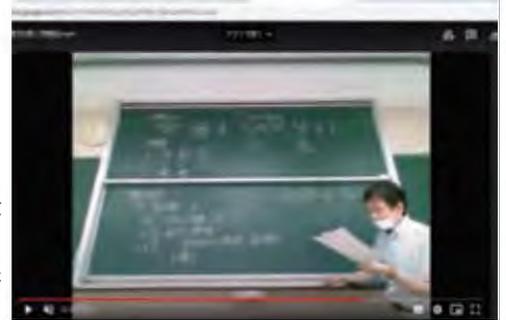
【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

Chromebookの校内外での活用例
～マトリックス図～

A 教科指導における活用

1 定期考査・実力考査の解説動画を共有し、振り返りや反復学習に活用 (Google Classroomや共有ドライブを活用)

- ・解説動画は、生徒のつまづき易い問題や質問の回数が多い内容を中心に作成しているため、生徒は、反復学習や振り返り学習が行える。教員は、発展的な内容を中心に質問への対応ができる。
- ・蓄積している解説動画は、良質な内容を中心に扱っているため、数年後においても実力をはかる教材として活用できる。
- ・GoogleのClassroomのストリームを活用することで、生徒はいつでも解説動画を参照できる。
- ・教材配付用のGoogleドライブを活用し、複数の解説動画を構造的に整理し、対象の動画が検索しやすい。
- ・今後、教科書の例題や大学入試問題の解説動画の作成も予定している。(2・3年生はすでに作成済み。)



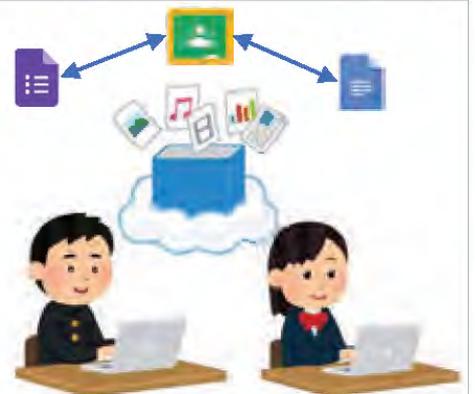
2 Google Classroomを活用した課題のやり取りや教材配付 Google Jamboardや学習アプリ等を学校や家庭で活用

- ・1年生の1人1台端末は、情報で使い方や情報モラルを中心に説明が行われた後、5月中旬から他の教科等での活用がスタートしている。
- ・英語、数学、公民、総合的な探究の時間等では、Google Classroomを使って、教材を配付したりオンライン課題のやり取りをしたりしている。保健等では、Google Jamboardを使った効果的な思考の共有と可視化をしている。
- ・英語等ではChromebookに学習アプリをインストールした独自の活用をしている。



3 進路講演会など、校内外の行事等への参加の記録や報告をポートフォリオ化するため、Googleのクラウド上のグループウェアサービスの有効活用

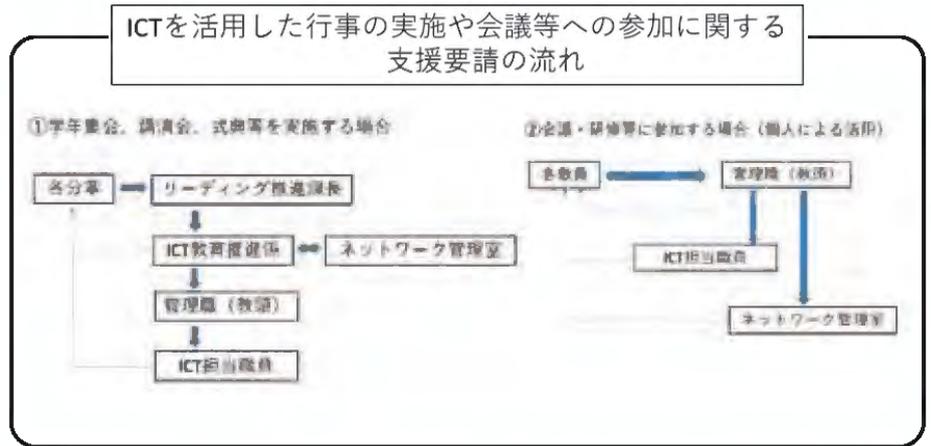
- ・Google Formsとドキュメント、Classroomを連携させた効率的な仕組みを独自に構築している。
- ・生徒は、Google Classroomのストリームから該当のファイルを選択するとマイドライブにファイルが自動的に作成され学習履歴として継続的に保存することができる。Google Formsのファイルを添付する機能を使って、翌日にはレポートが提出できるようにしている。
- ・回収担当者は、効率的に全校生徒への課題配付、回収を行うことができる。



B 推進体制の整備と校務への活用

4 ICTを活用した行事の実施や会議等への参加に関する支援体制の構築が、学校全体の取組となり活用へつながる

- ・4月当初は、学校全体におけるICTの活用について戸惑う場面もあったが、推進体制を構築してからは、スムーズな活用が行えるようになっていく。
- ・支援要請は、リーディング推進課に相談することからスタートし、ICT教育推進係、ネットワーク管理室（ハード系）ともうまく連携し、取組を進めている。
- ・各種配信のパターンに応じた準備と対応を行っている。



5 本校のニーズ・課題に即応する校内研修の実施

- ・ICTの利用に関して日々の先生方の困り感を吸い上げ、校内で研修ができるように準備をし、タイムリーな研修を全教職員に行っている。同僚が自分の工夫を講師となって広めることを基本としている。
- ・5月に、生徒の学びを止めないため、教職員全員を対象とした説明動画を作成する研修を実施した。1人1台端末を活用した、すぐに活用できる内容で、学校を休んでいる生徒へ授業動画を配信するなどの活用が進んでいる。



6 PTA行事や学年行事、進路講演会などにおける各種配信の充実(行事の内容に合わせた配信方法の選択)

- ・ZoomやGoogle Meet、YouTube Liveなどのメリットとデメリットを把握し、適時適切なシステムを選択して配信をしている。
- ・5月に、少人数で相互のやり取りが必要なPTA新旧役員会や2年生の保護者懇談会にはZoomを活用し、大人数が対象の第1学年合同保護者会には、1人1台端末を活用し、YouTube Liveを利用した限定公開による配信を実施している。



C 課外活動での活用と新たな取組

7 部活動における遠隔技術を活かした活用

- ・文学部が俳句の講師の方とリモートでやり取りをしている。
- ・数学同好会が中心となり、特別数学講座の中で、年間10回ほど、京都大学の名誉教授から大学レベルの学術的な探究について、生徒の希望に合わせてながらリモートで実施している。
- ・茶道部が、将来アメリカ国務省に勤める全米トップ大学の学生たちと、茶道文化をテーマにリモートで交流している。



【まとめ】

岡山朝日高等学校では、3年ほど前から行われていた入試問題の解説動画の作成・活用が素地となり、コロナ禍での対応も全教職員で試行錯誤を繰り返しながら取り組むことで、ICTの効果的な活用につながっているように感じる。各教科の取組もさることながら、校内組織体制が全教職員に周知され、様々な学校行事や学習活動の中でうまく機能していることが、学びの深化への足掛かりとなっている。

今後、さらにICT活用の充実に向けて全教職員で取り組むことによって、岡山朝日高等学校が掲げているGIGAスクール構想で実現したい学び（本質的な学力を獲得するとともに自己表現するための道具として校内外で活用する）につながるのではないかと考えている。



岡山県立津山高等学校でのGIGAスクール構想推進への取組を取材しました

【概要】

『まず使っていこう!』『使ったらいいことありそう!』を合言葉に、端末を持つ1年生の授業を中心として、授業やHR、進路指導等でGoogleのアプリを活用した実践が増えつつあり、そのメリットとデメリットを検証しながら実践例が蓄積されている。

組織として主導できる人員を増員配置し、校内研修では年度当初に自由参加の形で“自主研修会”を開催した。また、総合教育センターの遠隔研修では、各教員が持つ端末に資料を共有することで、紙媒体の配布をしない研修形態だった。

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 教科指導におけるメリットとデメリット

1 多くの教科でJamboardを活用したグループ学習を行っている。

◎頻繁に使うことで生徒も慣れ、モチベーションも高まる。

◎意見を出すハードルが下がり（主体的）、簡単に班員や他班の意見を共有（対話的）でき、個々の考えが深まる（深い学び）。

◎PDFで簡単に保存ができ、簡単に振り返ることができる。

△タッチペンやタイピングなどに習熟しておらず、手間がかかる。

△ボード作成に気をとられて、読解がおろそかになることがある。

△（使用すると）楽しいので、授業の雰囲気の変化が難しい。また、机のスペースが狭くなる。



1組活動を見取りながら発言

タッチペンも活躍ー



[4人1組でJamboardを使って考える(5分)]



[全10班の考えをクラスで共有する(4分)]

2 フォームの小テストやアンケートを使って根拠を示した解説を行っている。

◎今までは「ここできていない」という問題を、教員の経験則で話していたが、小テストやアンケートの結果がすぐに見えるので、根拠を示しながら話ができ、生徒も納得しやすい。



3 デジタルでの課題提出は迅速かつ効率的に評価できる。

◎録音機能を使って、スピーキングテストをクラスルームで課題として提出。英文添削指導もデータで提出、データで返却可能。（英語）

◎動画撮影でフォームの確認が可能。（体育）

△いつでもできるがゆえに後回しにしたり、勤務時間外にしたりしてしまう。



B 生徒指導・進路指導・部活動の情報化

4 HRの連絡事項はClassroomに表示することで、情報の共有がスムーズに。

◎ClassroomにHRの連絡事項（健康観察・課題提出・アンケートなど）を掲載することで、配る紙の量も減り、生徒の情報の取りこぼしが少なくなった。

△大量のデータをうまく管理する必要があるので、教員、生徒ともに情報の取捨選択力が必要である。



5 推薦指導などの進路指導でも、Classroomの課題提出を活用。

◎志望理由などの文章はデータによるやり取りで指導が可能に、面接指導はZoomやMeetなどで遠隔指導が可能になった。

△face to faceの指導が減り、本人の表情を見ながらできていたことができなくなった。

△職員室にあいさつをして入り、担当の先生に声をかけて願います・・・など当たり前とされてきたコミュニケーションが減ってきている。



6 生徒とのオンラインでのコミュニケーションに透明性を保つ。

◎HRだけでなく、部活動などのクラスルームも多数あるため、各クラスルームに教員は必ず複数名所属し、管理職や非常勤の先生など、自由に入れるようアカウントを整備したことで、透明性が保たれている。

C 校務・校内研修の情報化

7 校内組織の工夫で、効率化と活性化を実現。

◎技術面から支援する『教務課情報係』、授業改善から支援する『教務課企画係』を設置し、各年次2名ずつを配当して強化したことで、学年間の情報共有がやりやすくなり、円滑に業務が進行するようになった。また、転勤などで担当がいなくなることによるトラブル発生リスクが軽減された。

◎年度当初に自由参加の形で“自主研修会”を開催した。基本的なChromebookの操作から、授業実践の紹介まで、丁寧に説明しており好評だった。また、併設する中学校の先生も多数参加することができた。



8 情報共有には実践事例通信や、動画を活用。

◎Chromebookの活用授業などを紹介する企画通信を随時発行し、全員に配付することで技術の伝達がスムーズになり、困ったときも聞きやすくなった。

◎例えば「連絡先をcsvで取り込むには？」のような、紙の説明資料では説明しにくかったり、紙の説明資料を作る労力がかかったりする場合に、マイクで説明を加えながら実際の画面上の動きを録画し、Classroomの「高校職員室」（教員のみ見れるもの）に投稿し、周知した。

※併設の津山中学校（数学）では、生徒から多い質問については解説動画を作成し、Classroomでシェアしている。



9 研修資料はGoogleDriveで共有し、ペーパーレス会議を実現。

◎総合教育センターの研修支援を遠隔で行った際や、校内の各種会議資料はClassroomやGoogleDriveにアップし、『必要な人だけ、必要な場所だけ印刷する』ことにしたことで、全員の机の上に確認しながら資料を配付し、会議後は取りあえずファイルする、という紙資料のムダが減った。

△依然として「紙で資料を配ってほしい」という声もある。



【まとめ】

昨年度から津山高校では授業内外を問わずICT活用を進めており、本年度に入り、組織としてより効率的な支援体制が整いつつある。現状課題もあるが、試しながらやってみる、使ったらいいことがありそう！と前向きに考えてもらえるよう取り組むとのことだった。

2021/6/11 取材

令和3年度 GIGAスクール構想の実現に向けた取組 岡山県総合教育センター

岡山県内の各学校では、新学習指導要領の対応と並行して、GIGAスクール構想の実現に向けた取組が進んでいます。ICTを活用した効果的な指導、1人1台端末を活用した児童生徒の主体的な学習、遠隔技術の活用、校務の情報化による効率化など、今まで以上に教育の情報化の推進が重要となっています。

県総合教育センターでは、こうした状況に対応できる教職員を育成するため、ICT活用指導力の向上を目指した研修を充実させています。

県教委における重点方針

夢育
非認知能力

**GIGAスクール構想の実現
DX戦略による学校教育の変革**

地域学
PBL

研修講座

研修講座

教育の情報化に関する研修講座

- 経験年数別研修講座
初任・3年・中堅・16年
- 悉皆研修
【管理職研修】 小中高特
校長・副校長・教頭
【事務職員研修】
新採・主任・主幹
- 専門研修
次世代リーダー養成研修講座
教科研修（各教科）
実践発表・キャプテン研修
小学校プログラミング
管理職対象DX研修

調査研究

ICT活用実践事例の収集

好事例の収集と情報提供

- 情報収集
各校との連携体制・事例取材
GIGA取組のアンケート
- 情報提供
おかやまICT活用実践事例集
教育の情報化ユニット研修
Facebook

遠隔技術の活用

- ハイブリッド型・ハイフレックス型
研修の推進
- ・技術の習得
(遠隔授業・授業配信・動画作成)

研修支援

研修支援

地区研修と校内研修の支援
遠隔研修にも対応

- ・教育クラウド研修活用研修
- ・1人1台端末活用研修
- ・授業でのICT活用場面研修
- ・主体的な学習活動を考える研修

教育の情報化ユニット研修

オンラインで研修できる研修資料

- GIGA端末導入期編
31項目のICT活用指導力を育成
動画と資料 1ユニット15分
- 授業づくり編（新規作成）
授業改善と効果的なICT活用
授業場面動画と解説

教育の情報化研修の3つのポイント

Point 1

全ての段階の経年研、管理職研修でGIGAスクールに関する研修内容を実施します。

Point 2

各学校の取組や実践を取材し、Webサイトや研修講座などを通して情報提供を行います。

Point 3

集合研修以外にもeラーニング研修や遠隔研修などの研修形態を用意します。



岡山県総合教育センターHP紹介

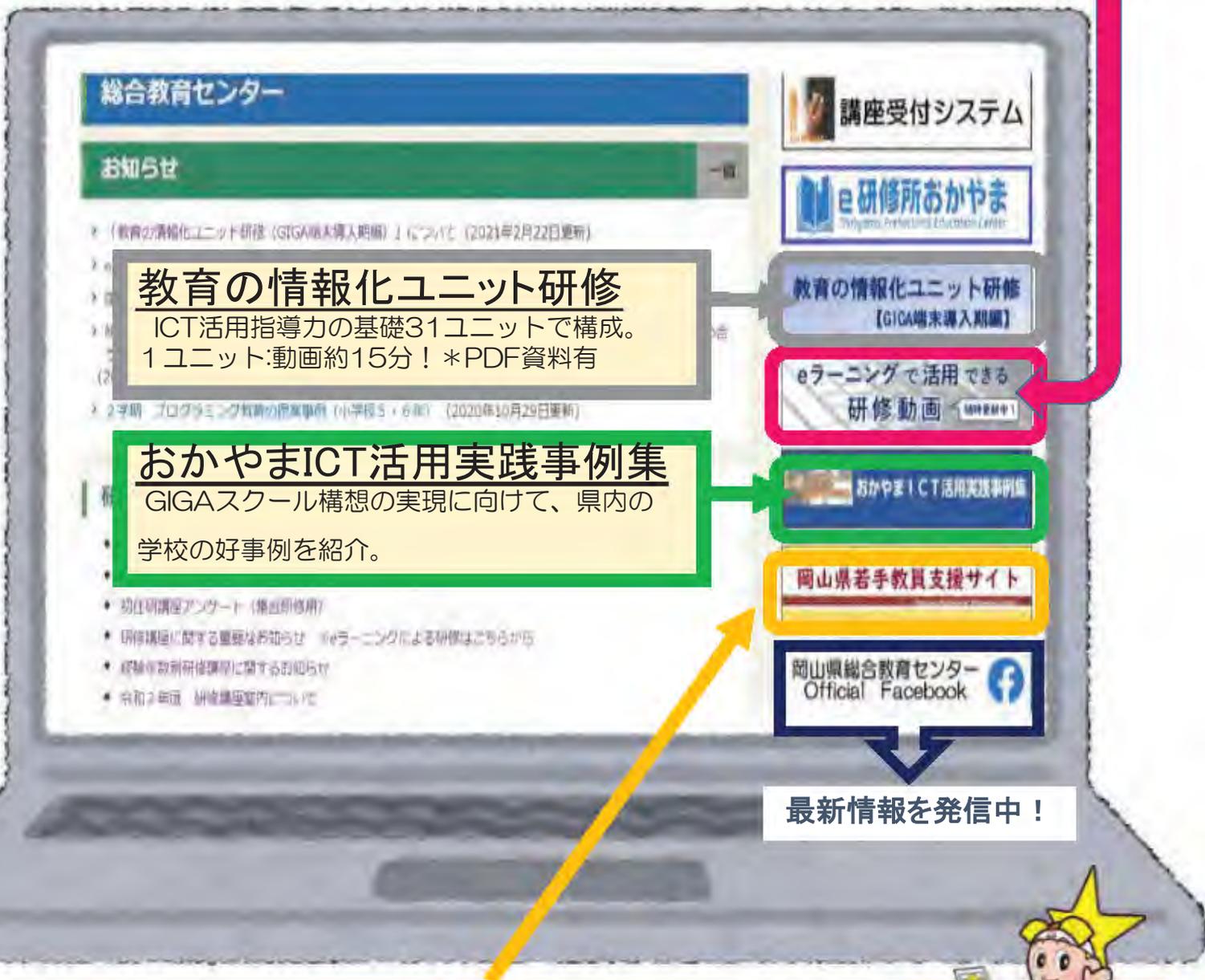
<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/215/>



50本以上
アップ中!

eラーニングで活用できる研修動画

学習指導、生徒指導、特別支援教育、情報教育、学校組織マネジメントの研修動画を公開。初任者研修では、校内研修150時間に位置づけて視聴します。繰り返しの視聴や焦点化した活用等、ニーズに応じて活用できます。



岡山県若手教員支援サイト

第1部「教育活動に役立つ情報」、第2部「学級担任のまなざし」、第3部「小学校理科」授業づくり、学級づくりに役立つ情報を紹介。県総合教育センターは、これからも若手教員のみなさんを応援していきます。



教育の情報化

全31
ユニット

ユニット研修 公開中!!



©岡山県マスコット ももっち

視聴ランキング



Unit
07

ホワイトボードで共同作業
(Jamboardの基礎)



Unit
12

授業支援アプリの基礎基本
(Classroomの基本操作、教材配信)



Unit
06

Google for Educationの基礎基本
(Chromebookの基本機能、Gドライブ)

ユニット研修のほかに、研修動画、調査研究成果物、実践事例、Facebookなど、様々な情報を発信しています。

詳しくは、岡山県総合教育センターの
ホームページをご覧ください。



<https://www.pref.okayama.jp/page/683507.html>

ユニット研修 で指導力アップ!!

学校として「全員がこれだけは！」という共通して身に付けたい技能等のユニットを選択し、個々が自己のペースで習得したり、校内研修で活用したりしてください。

夏季休業中の指導力アップに、ぜひご利用ください。



©岡山県「ももっち」

1人で取り組んでみよう。

子ども達の考えをクラス全体で共有できないかな？

Jamboard Unit 07
Classroom Unit 12

オンライン会議ができないかな？

Meet Unit 18
Zoom Unit 19
遠隔授業 Unit 20

保護者アンケートを簡単に集計できないかな？

Spreadsheet Unit 09
Forms Unit 11



©岡山県「ももっち
うらっちと仲間たち」

みんなで考えてみよう。

著作権や情報セキュリティについて

著作権 Unit 28
情報セキュリティ Unit 29
情報セキュリティ Unit 30

スマホやネットとの適切な付き合い方について

情報モラル Unit 25
ネット依存 Unit 26

GIGAスクール構想の目指す児童生徒の学びについて

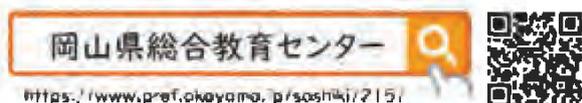
まとめ Unit 31

上記はユニット研修の選択例です。他にも多数のユニットを用意しております。

詳しくは、岡山県総合教育センターの
ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.okayama.jp/page/683507.html>





<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/215/>



- 講座受付システム
- e研修所おかやま
Okayama Prefectural Education Center
- 教育の情報化ユニット研修
【GIGA端末導入期編】
- eラーニングで活用できる
研修動画 ← 随時更新中!
- おかやまICT活用実践事例集
- 岡山県若手教員支援サイト
- 岡山県総合教育センター
Official Facebook
- 調査研究成果物 (冊子、リーフレット等)

岡山県総合教育センター 企画部



〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL 0866-56-9102 (企画部)
FAX 0866-56-9122 (企画部)
Web <https://www.pref.okayama.jp/soshiki/215/>

「UDデジタル教科書体」は、デジタル教科書をはじめとしたICT教育の現場に効果的なユニバーサルデザイン書体です。学習指導要領に準拠し、書き方の方向や点・ハライの形状を保ちながらも、太さの強弱を抑え、ロービジョン（弱視）、ディスレクシア（読み書き障害）に配慮したデザインで、リーダビリティについてのエビデンス（科学的根拠）も取得しました。また、2016年度より施行された障害者差別解消法の理念にも基づき設計されています。最新のWindows10に標準でインストールされています。

<https://www.typebank.co.jp/feature/uddkyo/>